

令和7年 1月9日 (木)

# あさひの日だまり

NO.30

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～今年もよろしくお願いたします～

楽しい学校創りに取り組みます



朝4年生の教室を訪ねたらちょうど宿題を集めていました。書初めが机の上に出してあったので書初めで記念撮影をお願いしました。ニコニコしながら書初めを掲げている元気な子どもたちの姿に接しているうちに、登校日初日のちょっと私のうつむき加減になりそうな気持ちがパッと明るくなりました。やっぱり子どもたちの明るさはエネルギーです。今年もこの子たちからエネルギーをもらいながら頑張りたいと思います。保護者の皆様にもいろいろお世話になります。よろしくお願いいたします。

昨年度末に保護者の皆様に学校評価アンケートをお願いしました。ご協力本当にありがとうございました。感謝申し上げます。年が明け教頭先生がアンケートの内容をまとめて下さったものが手もとに届きました。一つ一ついただいたご意見を読ませていただきました。学校の取り組みに賛同していただいているご意見を目にするのが本当に嬉しい思いになります。

保護者の皆様の思いに今後も答えていかれるように一層努力しなくてはと思いを新たにしました。

一方「子どもを安心して学校にお願いできる環境ではないことが残念です」というように、保護者の皆様の願いにお答えできていない実態に対して、切ない心の内をお伝えいただいているご意見も多数いただきました。日々目の前のお子さんの思いやつぶやきを目にし、耳にされている保護者の皆さんの切実な心の声であります。すぐにでも何とかしなくてははいけません。内容を読ませていただき私たちの心がけて改善できることがいくつかありました。そのことに関しましては職員間で共有し改善してまいります。一方、保護者の皆様の切なさを理解しつつ正直に申し上げてすぐに「このへんで応援しました」もありました。そのような状況にあることが本当に申し訳ない思いです。

保護者の皆様の思いには常に真摯に耳を傾け微力ながら改善に努めてまいります。ご心配なこと等おありになりましたら遠慮なくご連絡くださいませ。なおアンケートの結果につきましてはおってこのお便りでお知らせします。

始業式では、いつものように子どもたちにそして先生方にも、本当の楽しさを実感するにはその前にどうしても苦勞する時間が必要ですよというお話をしました。「苦勞は買ってでもしろ」と言いますがそれはなかなか難しいことです。自分の生きてきた過去を振り返ってみても「できれば楽な道」と考えていたことが多いように思います。それでも、「あの時あんな話を聞いたから今回はちょっと頑張ってみようかな」という子どもたちの頑張りのきっかけになってくれればと思ひながら時間をもらってお話をしました。よろしければ目を通してみてください。

皆さんおはようございます。今年もよろしくお願いたします。今日はこの休みに校長先生が経験したことをお話します。校長先生は以前からの夢であった箱根駅伝の応援に行ってきました。

この地図を見て下さい。箱根駅伝のコースです。1日目は東京を出発して箱根という山の上までおよそ100

キロの距離を5人の大学生ランナーがタスキをつないで走ります。2日目は1日目と同じ道を5人の大学生ランナーが東京のスタート地点までタスキをつないで戻ってきます。ということで箱根駅伝は1チーム10人の大学生のメンバーがおよそ200キロの距離を走る駅伝競走です。校長先生は2日目に9区の選手が2



0キロを走り終えてもうすぐ次のランナーにタスキを渡す地点で応援をしてきました。

そしてこれが当日撮った写真です。(裏面に掲載) 1位で走ってきた青山学院大学4年の田中選手です。田中選手は20キロを走り終えようとしているのに顔にはにわかには笑顔をはきかべていました。まるでレースを楽しんでいるかのようでした。校長先生は思いました。優勝を狙うチームの選手ってすごいな〜って。走る力もすごい相手に負けない強い気持ちもずば抜けているんだなって。苦勞を知らない走りのエリートだって。

家に帰ってから目の前を走り抜けていった田中選手について書かれた記事を目にしました。記事を読んでいくうちに田中選手に対する印象が少しずつ変わっていきました。記事の内容はだいたいこんな内容でした。



2年生で出場した箱根駅伝で思うような記録を残せなかった田中選手は3年生になり悔しさを晴らすため徹底的に自分を追い込む練習をしました。その結果大会前に足を痛めメンバーに選ばれませんでした。それでも、田中選手は腐ることなくメンバー全員へのお守り作り、代わりに走る2年生を徹底して支えました。そして当日笑顔で2年生が走り出すのを見送りました。

その直後の田中選手の写りがあったのでみなさんにお見せします。田中選手は涙を隠そうと手で顔を覆っています。田中選手のコメントもついていました。「絶対泣かないと決めてたんですけど、やっぱり悔しさが出ちゃいましたね」

田中選手は4年生になりキャプテンに選ばれます。しかし、個性の強いメンバーはなかなか一つにまとまりません。田中選手は箱根で勝つことを目標に1年間苦しみながらチームをまとめてきました。田中選手の選手生活は苦勞の連続だったのです。

先ほどの写真へ戻ります。何度この写真を見ても、3年間悩み続けた田中選手の心の中をうかがい知

ることはできません。ただただレースを楽しんでいるように見えます。

本当の「楽しさ」を手にするには、どうしてもその前の苦勞は避けて通れないんじゃないか、その苦勞を経験した人だけが今まで経験したことのない満足感と充実感を手にすることができるんじゃないか、そういう気がするんです。

どうぞみなさん。満足感と充実感を手にするために、今年は覚悟を決めて今まで経験したことのない「苦勞」に果敢に挑戦してみませんか。

